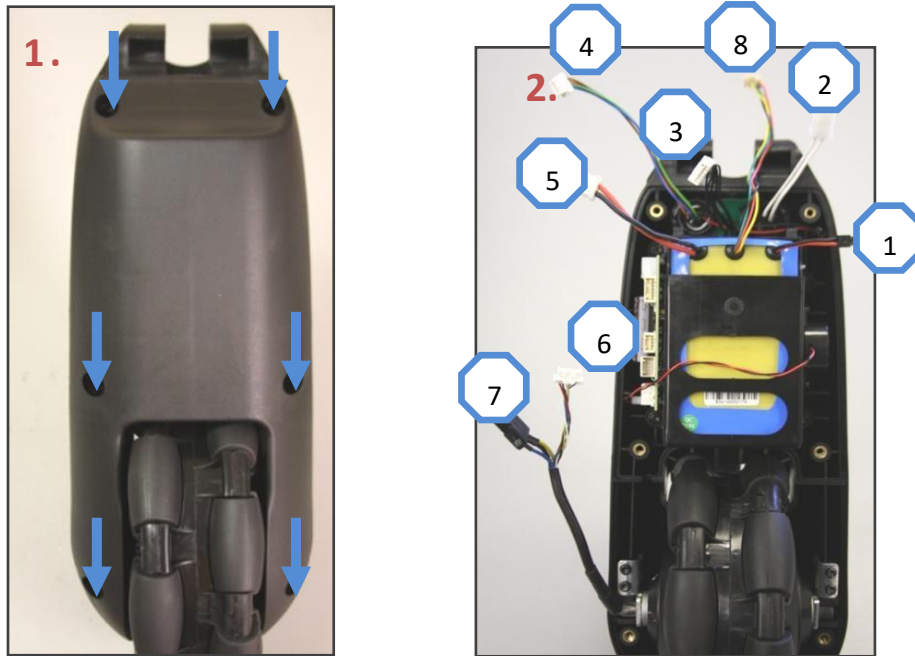
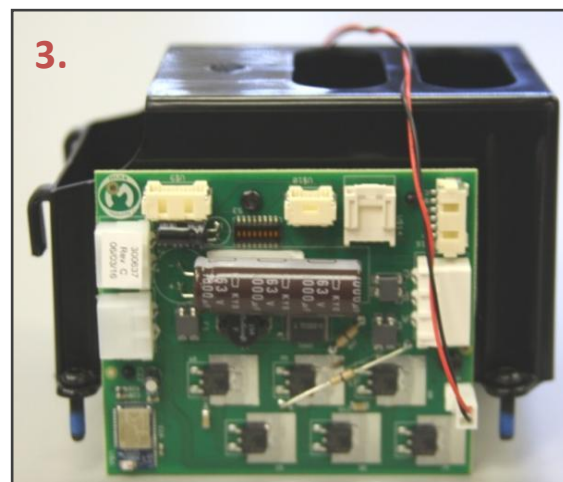
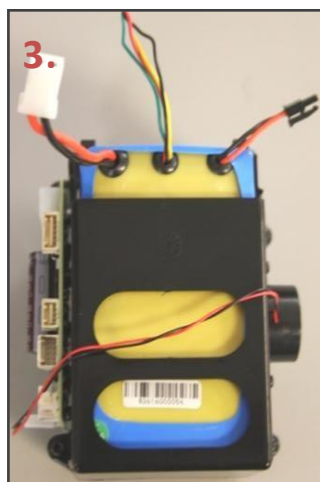


MX2 ドライブユニット・バッテリーパックの交換 (16-06-27)

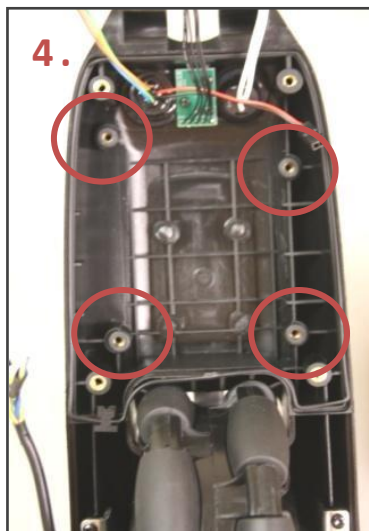
1. サイズ 3mm の六角レンチでケースの底にある6個のネジを取外します(図1参照)。
この時、ネジの頭をしっかりと押さえてネジを緩めて下さい。押さえが甘いとネジ頭をなめて、ネジ穴をつぶしてしまいます。ネジを全部取外してから、裏カバーを外します。



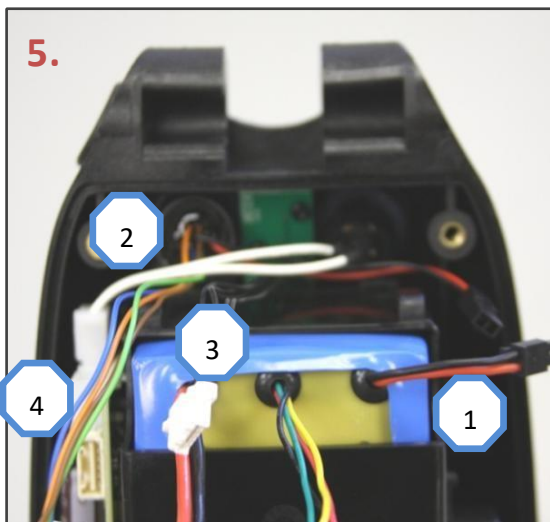
2. 基板から7個のコンネクタとバッテリーからの1個のコンネクタ(#5)を外します(図2参照)。
備考: コンネクタ#8はドライブユニットの S/N によっては入っていません。
3. T20トルクスレンチで4個のネジを外し、筐体からバッテリーパックと回路基板のアセンブリを取外します。
この2個のアセンブリが外れたら、バッテリーパックを取付けている底のプラスチックを外し、バッテリーパックを交換し、再度、底のプラスチックを取付けます。



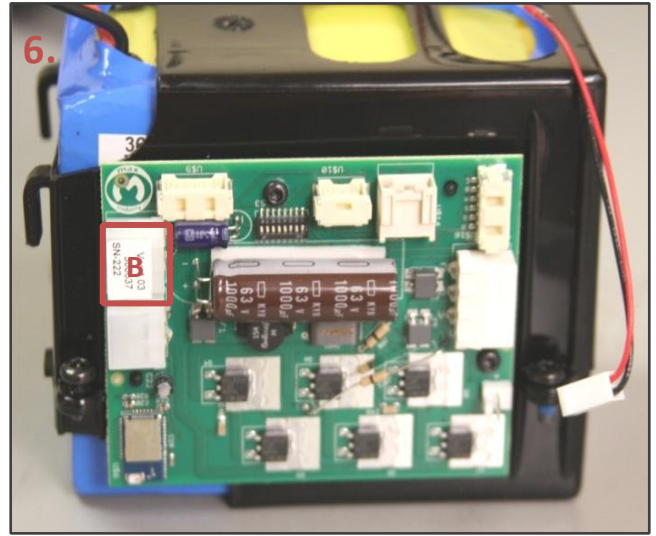
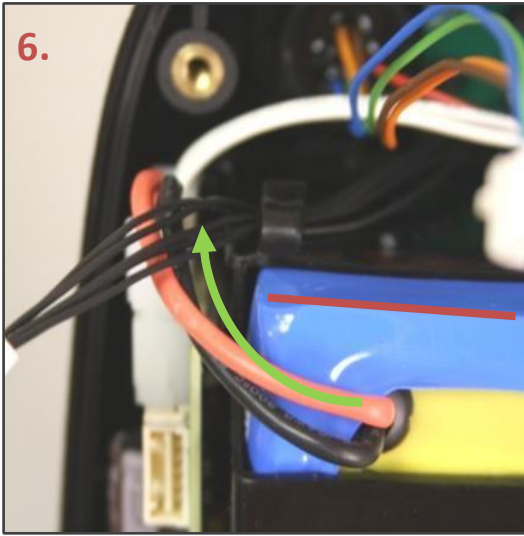
4. バッテリーパックを取付ける4個のネジ・インサートに衝撃吸収用のグロメット(ゴム輪)を載せます。(図4の赤丸参照)。バッテリーパックを、ゴム輪がインサートの頭から外れないようにして、筐体に落としします。4個のネジを手で絞め、バッテリーを取付けます。



5. まず、#2のコネクタ(トグルスイッチ)をコネクタ#1と#3と#4のワイヤの上を超えて、回路基板 A のスロットに接続します。



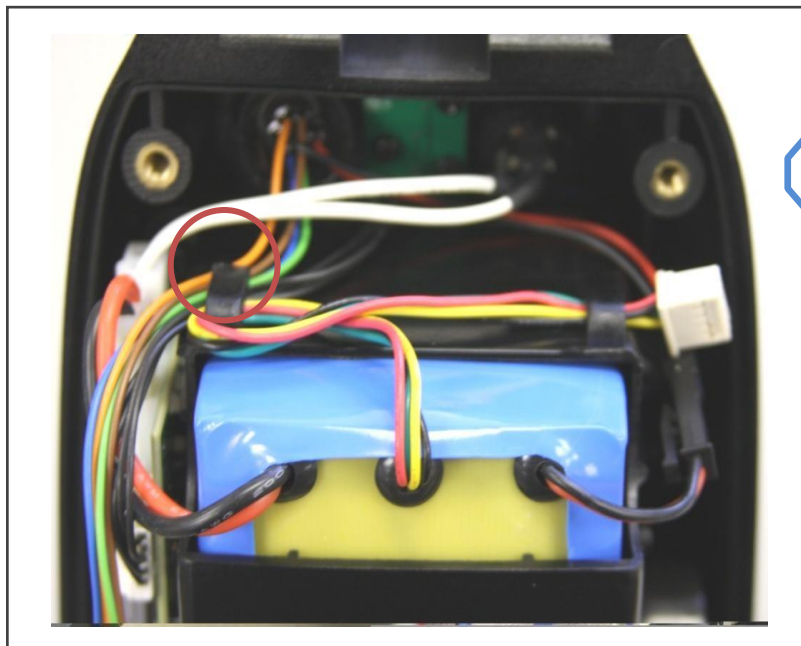
6. #5のコネクタ (バッテリーパワー) を回路基板 B のスロットに接続します。ケーブルは、フロントの端を通るのではなく(図6でフロントの端を赤線で表示)、バッテリーパックの側面を回って通すようにしてください。



S/N 205387 以前の製品について

7. #8のコネクタケーブルをバッテリー筐体のトップから見て左にあるフックを通し、バッテリーの長さだけケーブルを走らせ、反対側の右のフックを通します。これは、#8のコネクタは、上記の S/N 該当品についてはコネクタに接続しないままに放って置きますので、ケーブルがドライブユニットの中でガタガタ音を立てないようにする為です。故障の原因となりますので、回路基板には接続しないで下さい。

7.



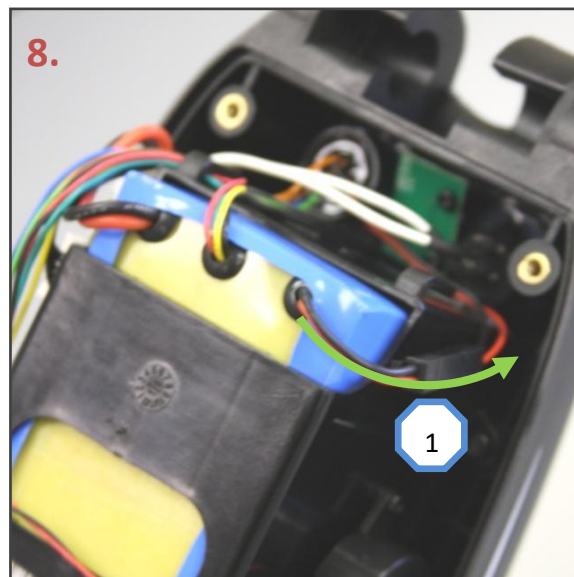
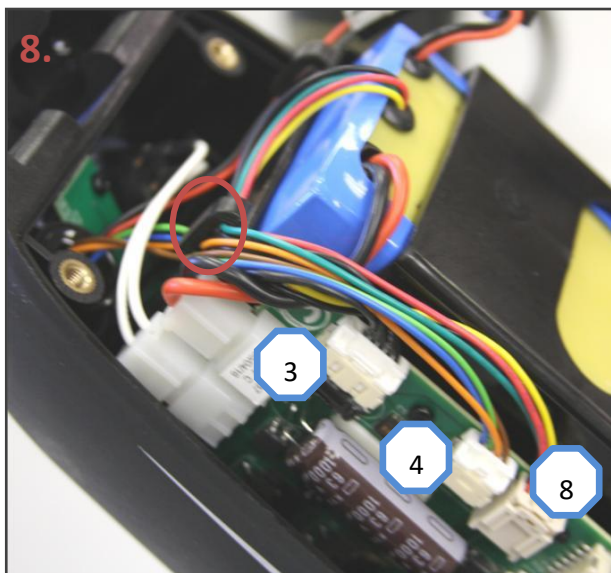
8

8. 最初に、#8のコネクタケーブルをバッテリー筐体のトップから見て左にあるフックを(右から左へ)通して、回路基板に接続します。

備考: #8のコネクタは S/N 205387 以降の製品についてのみ回路基板に接続します。

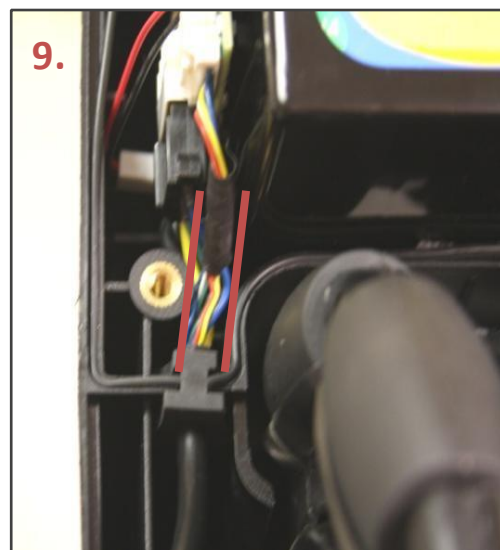
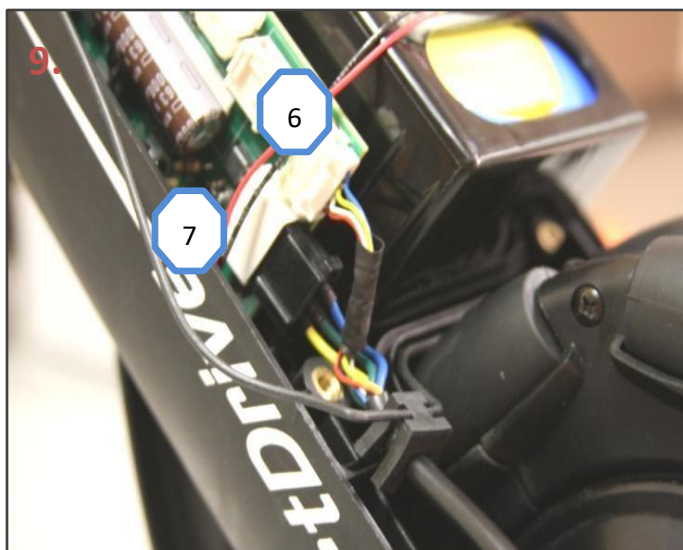
同様に、#3と#4のコネクタを、バッテリー筐体の左のフックを(右から左へ)通し、バッテリーワイヤの上を通り、回路基板に接続します。

#1の充電用コネクタは、バッテリーパックの右側面を回り、バッテリーパックの一番右のコネクタに接続します。



9. #6と#7のモータ用コネクタを回路基板に接続します。ゴム輪がモータケーブルの周りに有るのを確認してから、ゴム輪とケーブルを筐体のスロットに押し込みます。

全てのワイヤが筐体のスロットに収まり、組立時に下の筐体で挟まれない事を確認して下さい。



10.

注意:

バッテリー信号 (#8コネクタ) があり、回路基板に接続されている場合は、ドライブユニットは、スイッチ ON した時に2回、ビーと鳴ります。もしも、ドライブユニットが2回、音を出さない場合には、バッテリー信号用のコネクタを接続しないままにしてください——— ステップ7参照

ドライブユニットを持ち、モータを ON にして、ドライブユニットが機能する事を確認します。

モータはボタンを押すスピードに同期し、腕バンドをトンとタップするまで(又はユニットを OFF するまで)回転し続けます。

モータケーブルはスロットにあり(ステップ9)、ゴム輪が周囲に正しく置かれている事を確認してから、ドライブユニットの底のカバーを交換し、6個のネジでドライブユニットにしっかり取付けて下さい。

